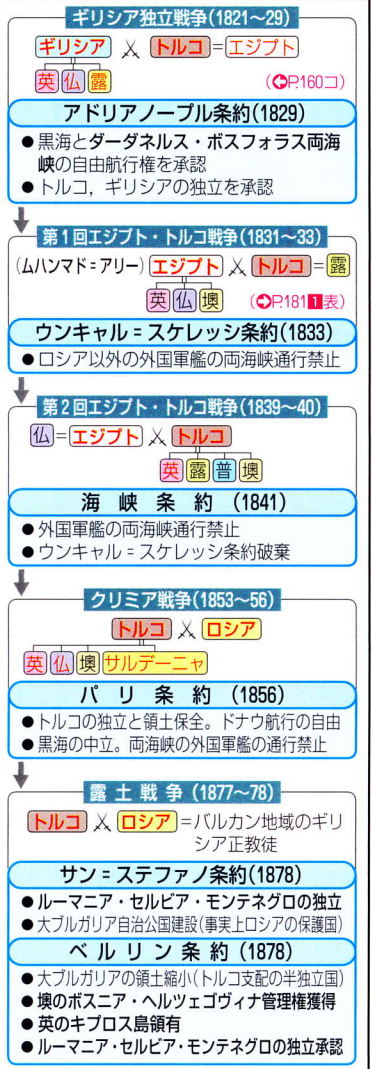


1 19世紀のロシアと東方問題 (P144年表, P189図表)

皇帝	国内の動向	対外政策
アレクサンドル1世	○「外見的近代国家」(ツァーリズム・農奴制の継承)	1815 ウィーン会議での領土拡大 (P160図表) ●フィンランド・ベッサラビア領有 ●ポーランド(立憲)王国の王位をロシア皇帝が兼ねる 1815 神聖同盟を提唱・四国同盟に参加 1821 アラスカ領有(アメリカのモンロー宣言(教書)の原因となる) ギリシア独立戦争(～29)
ニコライ1世	1825 デカブリストの乱 1830 ポーランド騒乱(七月革命の影響下のワルシャワでの革命運動)(～31)(P161コ) ○スラヴ主義者(スラヴォフィル)と西欧主義者(ザバトニキ)の対立	1828 トルコマンチャイ条約(カージャール朝ペルシアより、アルメニア奪取、治外法権獲得) 1831 第1回エジプト・トルコ戦争(～33) 1839 第2回エジプト・トルコ戦争(～40) 1853 クリミア戦争(～56)
アレクサンドル2世	1861 農奴解放令 ○アレクサンドル2世の反動化 1872 『資本論』のロシア語訳 1874 ナロードニキ運動の開始 スローガン「ヴ・ナロード(人民の中へ)」 弾圧←挫折←農民の無関心 分散 一部 ニヒリズム(虚無主義)(1860年代～) アナキズム(無政府主義)(1840年代～) テロリズムの台頭 1881 アレクサンドル2世の暗殺	1858 アイグン条約 1860 北京条約 1863 ポーランド反乱(皇帝の改革に乗じた農奴の蜂起) 1867 アラスカ売却 1860年代～70年代 ウズベク系3ハン国の征服 (ブハラ=ハン国・ヒヴァ=ハン国)の保護国化 コーカンド=ハン国の併合 樺太・千島交換条約 1875 露土戦争(～78) 1881 イリ条約
アレクサンダー3世	○資本主義の発達により組織された労働者が革命勢力の中心として期待される	1881 露仏同盟、シベリア鉄道着工
ニコライ2世	1894 ロシア社会民主労働党結成 1905 血の日曜日事件 (P198写)	1896 東清鉄道敷設権獲得 1898 旅順・大連租借 1904 日露戦争(～05)

東方問題 赤字国名：交戦国



2 東方問題の背景

中近東に利害をもつ国々(英・仏・普・墺)の干渉

ロシアの南下政策
●国内矛盾から目をそらす
●ウクライナ小麦の販路・市場獲得企図

ギリシア独立戦争
エジプト・トルコ戦争
クリミア戦争・露土戦争

オスマン帝国の動揺
●領内諸民族の独立運動
●領内のギリシア正教徒をめぐるロシアとの対立(例：聖地管理権問題)

●ロシア国内の構図

ザバトニキ
西欧主義者

- 西欧的教養
- 自由主義思想
- 西欧革命の影響
- ツァーリズム・農奴制を批判
- 作家ゲルツェンらが中心

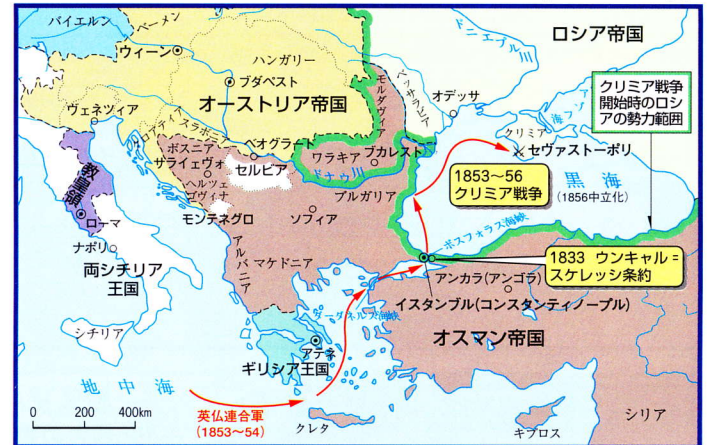
スラヴォフィル
スラヴ主義者

- ロシアの伝統
- 国粹主義思想
- 民族精神の重視
- ギリシア正教会の保護・ミール(共同体)保存を主張
- パン=スラヴ主義の源流

対立

解説 農奴制・ツァーリズムをめぐる諸矛盾拡大と農産物の市場獲得要求の中でロシアがとった南下政策は、英・仏などを警戒させた。

3 ウィーン体制下のバルカン半島 (P107図表)



4 ベルリン条約時のバルカン半島 (P181図表)



「ヴォルガの舟曳きたち」レービン
ツァーリズム下のロシア社会の後進性を描いた1873年の作品。

農奴解放令を読み上げるアレクサンドル2世
農奴に人格的自由を認めたが土地所有は有償とされ、不徹底であった。

